

事業番号	15 08 02	事業改善シート（令和7年度実施事業分）	□当初要求	□当初予算案	□補正予算案	■点検
事業名	社会教育を推進する施設の運営事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	生涯学習課	
		実施期間	S24 ～	E-mail	shogai @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

- ・地域社会において住民が相互に学び合い、地域課題の解決に参加していくことが必要であるが、それらを促す人材の育成が求められている。
- ・デジタル化の進展に伴い様々なデジタルデバイス（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差）が生じる中、誰もが主体的に社会参画するために、必要な情報に等しくアクセスできる基盤とリテラシー獲得の機会を充実させる必要がある。
- ・少子化や核家族化、デジタル化が進み子どもたちの体験活動の機会の減少や格差が課題となっているため、青少年の健全育成に不可欠な体験活動の機会を提供していく必要がある。

2 事業目的

- ・地域リーダーや公民館職員の資質向上に関する学びの機会を提供する
- ・デジタル情報基盤の充実等を通じて、誰もが生涯にわたり学びにアクセスしやすい環境を充実する
- ・子どもたちの「たくましく生き抜く力」や「自然を大切にする心」を育成するため、自然体験活動の拠点を運営する

3 事業目的を達成するための取組

- ①生涯学習推進センターの講座を充実
生涯学習推進センターにおいて、県内外の講師を招聘して、地域の課題解決に取り組む人材を育成する講座を開催する。社会教育士等の実力向上に向けた取組を進める。オンラインと対面を有効に組み合わせながら、受講しやすい講座を充実させる。
- ②県立長野図書館のサービス・情報資源のデジタル化推進
市町村と連携して「市町村と県による協働電子図書館“デジとしよ信州”」の運営・利用促進を図るほか、県立長野図書館独自の電子書籍サービスの充実、所蔵資料デジタル化の促進など、サービスや情報資源のデジタル化推進を図る。
- ③少年自然の家の管理運営
望月・阿南少年自然の家の管理運営を行う。指定管理者と連携し教育効果・専門性の高い体験プログラムの開発・普及や自主事業の充実を図る。

4 成果指標

（推移の凡例 ㄦ：改善 ㄨ：悪化 ➡：変化なし ー：数値なし）

No.	指標名	単位	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績			
①	生涯学習推進センター開催講座の受講者数（オンライン含む）	人	2,425	2,202	ㄨ	1,608	ㄨ	未達成	コロナ禍前（令和元年度）並みの受講者数を目指す。
②	市町村と県による協働電子図書館の利用登録者数	人	18,281	25,570	ㄦ	36,834	ㄦ	未達成	サービス開始（R4.8）後3か月目の1日平均登録者数をもとに、以後も同程度の登録者数を維持することを目的として目標値を設定。
③	少年自然の家利用者数	人	23,888	27,730	ㄦ	27,208	ㄨ	未達成	コロナ禍前（令和元年度）の約80%までの回復を目指す。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
5-4①	学びの共創による地域づくりの推進と生涯を通じた多様な学びの創造	県民一人当たり年間貸出冊数(公立図書館・電子図書館)	冊	2023 (R5)	5.5	2024 (R6)	5.5	2025 (R7)	5.5	2027 (R9)	6.0
5-4①	学びの共創による地域づくりの推進と生涯を通じた多様な学びの創造	社会教育士の数	人	2023 (R5)	50	2024 (R6)	68	2025 (R7)	80	2027 (R9)	110

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	0	291,895	3,431	295,326	274,415	287,021	24.7
R6年度	0	269,454	5,489	274,943	254,079	266,557	25.0
R5年度	106,907	281,589	3,344	391,840	244,300	380,899	25.0

7 主な取組実績と成果

・参集による対面とオンライン活用によるハイブリッド研修を積極的に行ってきた。地域づくり推進研修12講座、社会教育推進者育成研修18講座、施設開放1講座、ゆるつな講座1講座、生涯スポーツ研修講座7講座を実施し、延べ1,608人が参加した。

・講座終了後、YouTubeを使って講座の後日配信を実施した。

- ・「市町村と県による協働電子図書館“デジとしよ信州”」について、特に学校教育との連携や多様な学びの場における活用のほか、読書バリアフリーの推進等に努めた。聴覚障がい者や聞こえにくい利用者向けの“デジとしよ信州”体験会を2回（県立長野図書館、松本市中央図書館）開催した。

・県立長野図書館が所蔵する大正・昭和初期の資料150点の電子化を進め、著作権保護期間が満了したものを順次デジタルアーカイブシステム「信州デジタルコモンズ」へのアップロードを進め、誰もが信州の地域資源にアクセスできる環境の充実を図った。令和7年11月のシステム更新を機に、「信州デジタルコモンズ」ではDOI（Digital Object Identifier. インターネット上の電子化されたコンテンツのリンク切れを防ぐための国際的な識別子）を導入した。コンテンツ利用者及び資料登録機関の今後の利便性の向上が期待される。

・県民及び県内図書館・博物館職員を対象とした、デジタルアーカイブの実践を図るための研修会を2回（県立長野図書館、池田町図書館）開催した。

・小・中学校の学校行事での利用など、受入指導事業について、経験豊富な職員による質の高い、かつ、きめ細やかなサービスを提供し、利用者からは好評を得ている。

・自然豊かな環境等を生かしたキャンプ事業を始め、教育効果・専門性の高い自主事業を52回開催した。

指標 ①	生涯学習推進センター開催講座の受講者数（オンライン含む）	R6年度推移	↘	R7年度推移	↘	達成状況	未達成
講座の受講者数が、前年度を下回った。講座数を精選し、対象者及びテーマ別に区分を改めたことにより、受講対象が明確化する一方で、参加の幅がやや限定された可能性がある。また、例年参加者が多い講座について、講師の都合により令和7年度から実施を見送ることとなったことも、受講者数減少の一因として考えられる。引き続き、県民や関係職員のニーズを的確に捉え、実践性と専門性のバランスに配慮した講座構成の工夫と、受講意欲を高めるテーマ設定や講師選定に努める必要がある。							

学校における児童生徒の登録・活用を図るため、全市町村と県により構成される「市町村と県による協働電子図書館運営委員会」において、学校での一括登録方法の改善や各校への教職員用デモID貸与などを行い、「デジとしよ信州」の利用の普及に努めた。県立高等学校を含め、学校ごと、学年ごとなどの登録、教育活動への活用事例が増加している。テレビ、新聞等で紹介された後の数日は「ながの電子申請」によるIDの申請が集中することもあり、利用登録者は増加しているが目標値には届かなかった。

利用者数は回復基調となっていたが、新型コロナウイルスをきっかけに当施設を利用していた県外学校が地元利用に変更するなどの学校行事の形態に変化がみられることから、目標値には届かなかった。

9 今後の事業の方向性

(1) 上記 7、8 及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・生涯学習推進センターの講座については、受講対象やテーマの明確化により、講座の選択肢が減少したとの見方があるほか、例年受講希望が多い講座の休止に対する代替講座が不足しており、受講機会の確保や魅力維持が課題となっている。
- ・市町村と県による協働電子図書館については、「学校教育との連携」に重点的に取り組んだことにより児童生徒の登録が着実に増えてきたが、社会全体での登録は、マスメディアによる一過性の影響にとどまりがちであることが否めない。
- ・少年自然の家利用者数については、学校行事の実施形態の変化等により子ども達の平等な自然体験活動の機会が減少し、体験格差が懸念されている。多くの人々に豊かな自然環境を有した当施設を知ってもらうこと、自然体験活動を提供することが課題となっている。

(2) 事業改善の方策

- ・生涯学習推進センターの講座については、受講者ニーズの把握に努めるとともに、対象区分の見直しや講座構成を工夫し、幅広い受講者が参加しやすい講座設定を図っていく。
- ・市町村と県による協働電子図書館については、市町村と協力して、様々な場面で汎用的に活用できる広報ツールの作成等を行うなど、引き続きサービスの存在や概要の周知に努め、サービス受益者としての県民の自覚を促す。
- ・少年自然の家利用者数については、一般利用者の増加を見据えて指定管理者と連携し、当施設についてSNSを活用した周知に努めるとともに自主事業の充実を図っていく。

事業番号	15 08 02	細事業一覧（令和7年度実施事業分）		☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	社会教育を推進する施設の運営事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	生涯学習課	

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	生涯学習推進センター事業費		12,728 千円	15,126 千円	15,129 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	指導者養成等の研修事業	直接	地域や市町村の生涯学習の振興や生涯学習によるまちづくりを支援するための人材を養成するための講座開催		
			地域づくり推進研修12講座、社会教育推進者育成研修18講座、施設開放（天体観測と星空こども食堂）1講座、ゆるつな講座1講座、生涯スポーツ講座7講座		
2	施設管理運営事業	直接	生涯学習推進センターの管理・運営		
			年間242日運営、公民館支援専門員等3人配置		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	県立長野図書館事業費		201,695 千円	192,601 千円	209,320 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	電子図書館運営事業	直接	・「市町村と県による協働電子図書館（デジとしよ信州）」の運営・充実 ・「県立長野図書館電子書籍サービス」の充実・活用促進		
			「県立長野図書館電子書籍サービス」におけるコンテンツ数 2,619点		
2	コンピュータ管理事業	直接	・図書館業務システム等更新 ・「信州 知のポータル『信州ナレッジスクエア』」の更新・充実		
			「信州デジタルコモンズ」における「インターネットで閲覧できるコンテンツ数」 5,510点		
3	県立長野図書館事業費管理運営事業	直接	県立長野図書館の施設管理・運営		
			開館日数 279日		

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
3	少年自然の家管理運営費	166,476 千円	58,830 千円	62,572 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	少年自然の家運営事業 （指定管理委託料）	指定管理	・指定管理者による管理・運営。 ・自然体験プログラム等の自主事業の開催。 ・年間運営日数 望月306日、阿南298日 ・教育効果等の高い自主事業を開催（R7 望月35回、阿南17回）	